

分類No	北海道電力配電用品規格（HDS）	平成7年12月制定
K-65	中線引留バンド	

1. 一般事項

1.1 適用範囲

この規格は、架空配電線路のコンクリート柱において、コ型金物と組合わせて高圧垂直装柱の引留箇所を使用する中線引留バンド（以下、バンドという。）に適用する。

1.2 種類

バンドの種類は、表-1のとおりとする。

表-1

種類	適用径 (mm)
小	120 ~ 160
大	190 ~ 230

1.3 表示

バンドには、その表面の見やすい箇所に容易に消えない方法で、次の事項を表示しなければならない

- (1) 種類
- (2) 製造者名またはその略号もしくは登録商標
- (3) 製造年（西暦年の下2桁）

1.4 呼称

製品の呼び方は、品名および種類による。

（例） 中線引留バンド 小

1.5 荷造りおよび荷表示

バンドは、輸送中に損傷を受けないように荷造りし、その表面に次の事項を表示する。

- (1) 品名および種類
- (2) 数量

(3) 製造者名

(4) 製造年月

2. 構造・材料および特性

2.1 構造一般

バンドは、使用上有害な傷・錆・裂け目、その他の欠陥がない良質なものとし、次の構造のものとする。

- (1) バンドは、コンクリート柱にできるだけ密着させ、コンクリート柱に傷を与えない構造とする。
- (2) バンドは、コンクリート柱に容易かつ確実に取付けできる構造とする。
- (3) バンドは、コ型金物を容易かつ確実に取付けられる構造とする。
- (4) バンドには、全面一様に溶融亜鉛めっきを施す。

2.2 材料

バンドを構成する材料は、表-2のとおりとする。

表-2

部 品 名	材 料
本体、ボルト およびナット	一般構造用圧延鋼材（J I S G 3101）のSS 400またはこれと同等以上

2.3 形状および寸法

バンドの形状および寸法は、付図による。

2.4 特性

バンドの特性は、3.4により試験を行ったとき、表-3の性能を有するものとする。

表-3

項 目	特 性
構 造	1 および2項に定める、表示・構造・寸法・材料などの規格に適合すること。

項 目	特 性						
耐 荷 重	図-1 および図-2において、次の荷重を1分間加えたとき、バンドの各部に伸び・亀裂などの異常を生じないこと。 <table border="1"> <tr> <th>荷重方向</th><th>荷 重 値</th></tr> <tr> <td>水 平</td><td>11,000 N</td></tr> <tr> <td>垂 直</td><td>3,730 N</td></tr> </table>	荷重方向	荷 重 値	水 平	11,000 N	垂 直	3,730 N
荷重方向	荷 重 値						
水 平	11,000 N						
垂 直	3,730 N						
破 壊 荷 重	図-1 および図-2において、次の荷重を徐々に増加させたとき、バンドの破壊荷重は、次の値以上であること。 なお、このときのバンドの変形は、破壊とみなさないが、柱体に使用上有害な傷を生じさせないこと。 <table border="1"> <tr> <th>荷重方向</th><th>荷 重 値</th></tr> <tr> <td>水 平</td><td>22,000 N</td></tr> <tr> <td>垂 直</td><td>7,460 N</td></tr> </table>	荷重方向	荷 重 値	水 平	22,000 N	垂 直	7,460 N
荷重方向	荷 重 値						
水 平	22,000 N						
垂 直	7,460 N						
亜鉛めっき	亜鉛めっき付着量は、次のとおりとする。 <table border="1"> <tr> <th>部 位</th><th>付 着 量</th></tr> <tr> <td>本 体</td><td>450 g/㎡以上</td></tr> <tr> <td>ボルト、ナット</td><td>350 g/㎡以上</td></tr> </table>	部 位	付 着 量	本 体	450 g/㎡以上	ボルト、ナット	350 g/㎡以上
部 位	付 着 量						
本 体	450 g/㎡以上						
ボルト、ナット	350 g/㎡以上						

3. 試 験

3.1 試 験 の 種 類

試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 形式試験 品質の良否を判定するための試験
- (2) 受入試験 受入れを決定するための試験

3.2 形 式 試 験

形式試験は、次の項目について行い、全部の試験に合格しなければならない。

- (1) 構造試験
- (2) 耐荷重試験
 - a. 水平方向耐荷重試験
 - b. 垂直方向耐荷重試験
- (3) 破壊荷重試験
 - a. 水平方向破壊荷重試験
 - b. 垂直方向破壊荷重試験
- (4) 亜鉛めっき試験

3.3 受入試験

受入試験は、次の項目について行う。

- (1) 構造試験
- (2) 耐荷重試験
 - a. 水平方向耐荷重試験
 - b. 垂直方向耐荷重試験

3.4 試験方法

(1) 構造試験

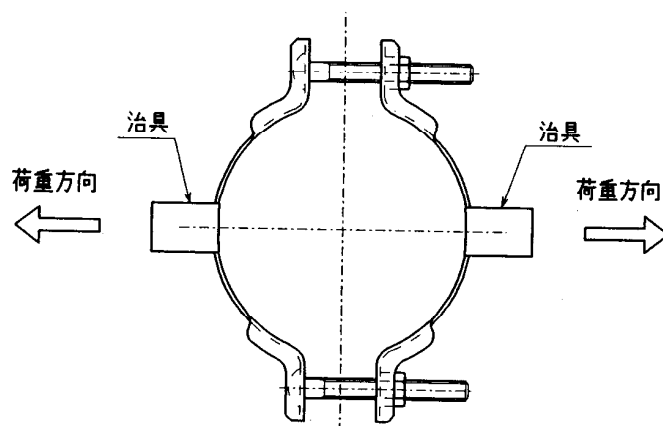
構造試験は、目視または測定器により、表示・形状・寸法・仕上がり状態等について調べる。

(2) 耐荷重試験

a. 水平方向耐荷重試験

図-1 に示す使用状態でバンドを締付トルク $800\text{kgf}\cdot\text{cm}$ で取付け、矢印の方向に表-3 の荷重を1分間加えたとき、バンド各部の状態を調べる。

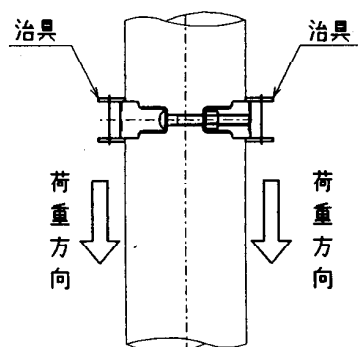
図-1



b. 垂直方向耐荷重試験

図-2に示す使用状態でバンドを締付トルク800kgf・cmで取付け、矢印の方向に表-3の荷重を1分間加えたとき、バンド各部の状態を調べる。

図-2



(3) 破壊荷重試験

a. 水平方向破壊荷重試験

耐荷重試験と同様の方法により、表-3の荷重を徐々に増加させたとき、バンド各部の状態を調べる。

b. 垂直方向破壊荷重試験

耐荷重試験と同様の方法により、表-3の荷重を徐々に増加させたとき、バンド各部の状態を調べる。

(4) 亜鉛めっき試験

亜鉛めっき試験は、JIS H 0401（溶融亜鉛めっき試験方法）により、付着量試験を行ったとき、亜鉛めっきの付着量を調べる。

4. そ の 他

4. 1 製造者は、形式試験項目について本規格に基づき社内試験を実施し、その試験成績書を3部提出すること。

4. 2 製造者は、納入と同時に受入試験項目について、HDS X-01（抜取検査基準）に基づき社内試験を実施し、その試験成績書を3部提出すること。

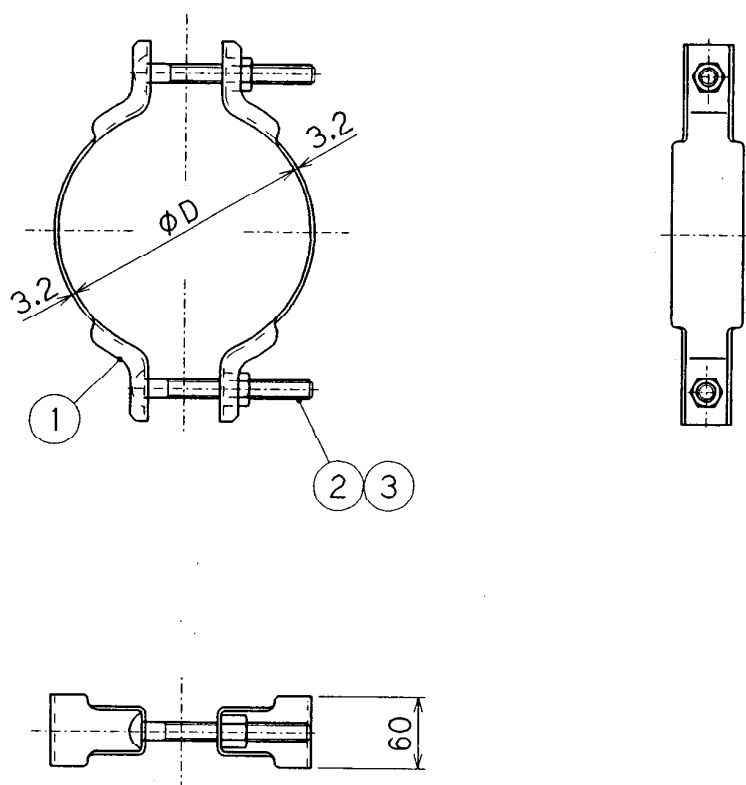
解 説

新規採用のため、平成7年12月制定した。

付図

中線引留バンド 大 , 小 標準形状寸法図

単位 : mm



種類	ϕD 適用径(mm)
大	$\phi 190 \sim \phi 230$
小	$\phi 120 \sim \phi 160$

3	六角高ナット M16 (H=21)	2
2	角根ボルト M16x140	2
1	バンド	2
N0	部品名称	個数